



見附市立見附小学校 学校だより

「自ら学び 進んで鍛え 共に伸びる見小の子」

みしよ

No. 357

令和7年1月17日（金）発行

〒954-0052

見附市学校町1丁目3番89号

Tel 0258 (62) 0141

<https://www.city.mitsuke.niigata.jp/site/misho/>

（前略）小学校二年生のおさむ君は、お盆にのつている食器を台所で運ぶようにお母さんに頼まれました。早く引き受けたものの、そば屋の出前の人が肩のところで片手でもたか運んでいるのを思い出し、またかねてからのやつてみたいと思っていた。冒険です。さっそくまねをしました。

お母さんが何か言うかな・・・とは思いましたが、何も言わなかったです。運びました。足の運びも慎重です。ついに台所の流しに置くことができました。よし、お母さんは「じょうずにできたね」と感心して言いました。おさむ君は得意満面で「まかせとけ」と叫びました。

こうした冒険に挑戦して成功したときには自信がつきます。それをお母さんにほめられました。もしお母さんが「ちゃんと持ちなさい」とか「そんな持ち方をしないで」と注意したらどうなるでしょう。お母さんの命令に従ってしまっただけ、素直な子どものように見えますが、（後略）



やる気を引き出す見守り

校長 後藤 正美

これは、医学博士の平井信義さんの著書『ほんの少しのやさしさを』（2003年）からの抜粋です。様々な著書がありますので、ご存じの方もいらっしゃると思います。上記文書を読むと、「なるほどなあ。」と納得した上で、「現実はどうもよくはいかないよ。」と、ついつい言いたくなるかもしれません。

しかし、頻繁に怒られたり注意されたりすると、自ら判断して行動することはいけないのだと無意識に感じ取り、何かをする前に「これやっていい？」と、大人の顔を伺うことが多くなるようです。これは、学校でも家庭でも同じです。このお母さんは挑戦を見守り、成功を称賛することでやる気を引き出し、主体性を育てているのです。

さて、1年生が2学期の生活科で、「かぞく にこにこ だいさくせん」の実践を行いました。お手伝いの仕方を学び、家庭で実践したのです。以下は、お手伝い後の子供たちの感想です。

「大さくせんがおわっても やろうとおもった。ほめられたから やるきがでた！」
 「もっとおてつだいたいなあって おもった。てつだってよかった。」
 「大人はいつもやっていてすごい。大人だから かんたんそうにみえるとおもった。大人をずーとほめたい。大人にかんしゃ。」
 「大人もたいへんなんだな とおもった。こどものおせわをしながら いえのしごととして、おうちの人すごいなーて おもいました。」

お手伝いにハラハラしながらも、しっかり行動を褒めてくださったおうちの方の表情が目に見えます。次への意欲を育ててくださいました。幼い子はやりたいことに夢中になり、時には大人をハラハラさせ、確かに口も出しくなります。しかしながら、「自分で考え行動する姿を見守る姿勢がやる気を引き出し、主体性を育てるうえで大切なのだ。」と、改めて子供たちの感想から学びました。

3学期も、学校と家庭で、お子さんの成長について共に考えて参りましょう。